古代エジプト語の音声を復元する

―歴史言語学への招待―

古代オリエント博物館クローズアップ展

協力：**筑波大学 宮川 創**（みやがわ そう） 研究室

メール：miyagawa.so.kb@u.tsukuba.ac.jp　ホームページ：https://somiyagawa.com/

背景：アメンヘテプ3世墓、ルクソール西岸、宮川創撮影

rꜥ(w)

***/ri:duw/ → */ri:ʕ/**

図表は、宮川創（著）河合望（監修）『読めない文字に挑んだ人々：ヒエログリフ解読1600年史』山川出版社、2024年より引用しています。

Amazon.co.jpでのご購入はこちらから↓

古代エジプト語とはどのような言語か

5000年の歴史を持つ言語 ナイル川流域で紀元前3000年頃から紀元後1000年頃まで使用された古代エジプト語は、現代のアラビア語とは異なる言語系統に属します。アフロ・アジア語族のエジプト語派に分類され、セム語やベルベル語などと姉妹関係にある言語です。**言語の発展段階** 古代エジプト語は、複数の発展段階を経て変化してきました：

0. 先・古エジプト語（紀元前32–27世紀頃）
●資料が少なすぎて文法がわからない

アビュドスU-j墓から見つかった象牙製のタグ。原ヒエログリフが刻まれている。エジプトにおけるおそらく最古の文字記録である。(出典：Tales from the Two Lands, https://talesfromthetwolands.org/2022/09/20/labels-from-tomb-u-j/)

1.古エジプト語（紀元前27–21世紀頃）
●『ピラミッド・テキスト』の言語
●文法がわかる文字資料として最古の段階

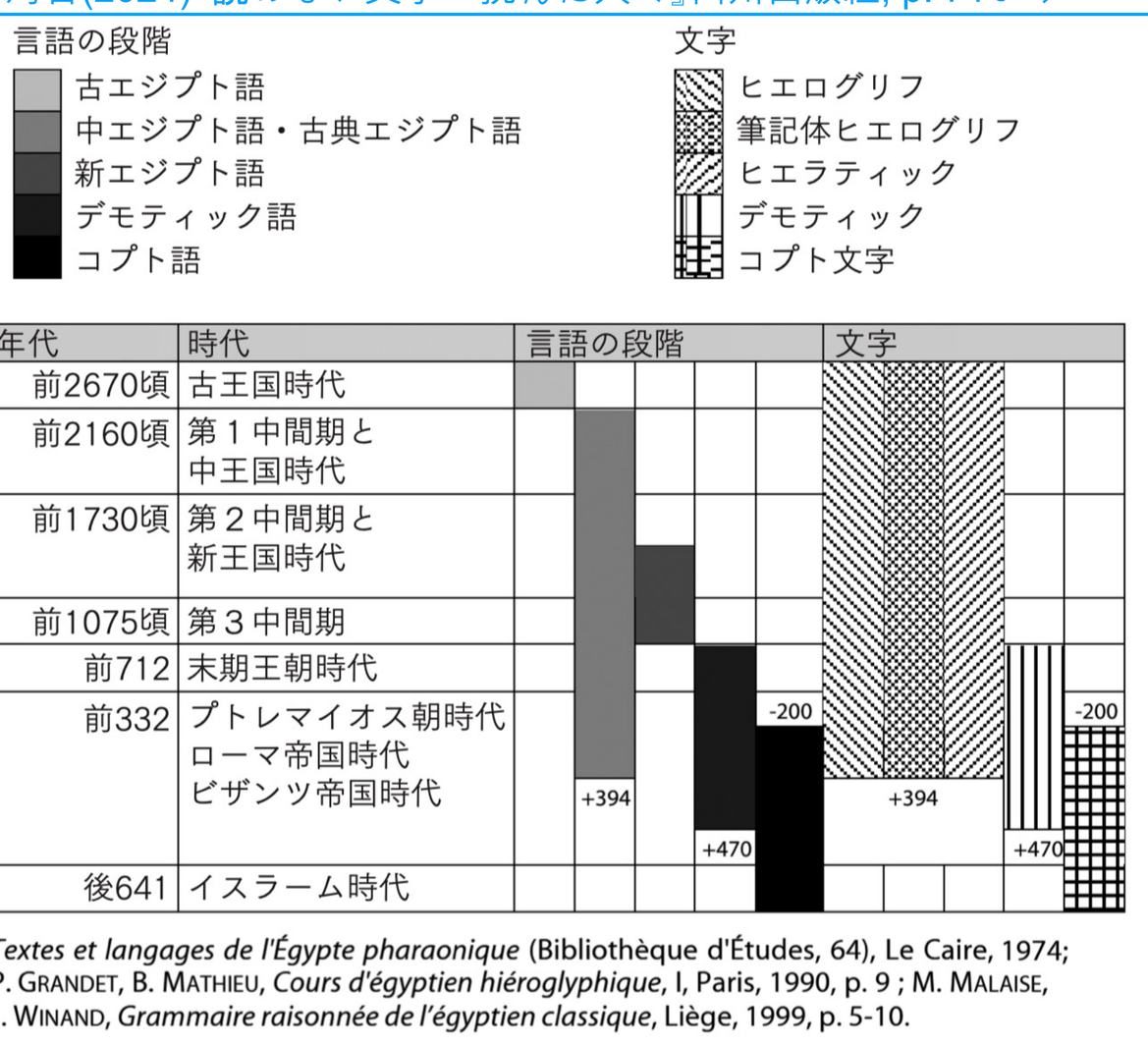
2.中エジプト語（紀元前23世紀頃–紀元後4世紀）
●古典文学の言語として長く使用
●整った文法体系を確立

3.新エジプト語（紀元前14–7世紀頃）
●口語的な特徴が文字に反映
●よりシンプル・分析的な文法構造へ

4.民衆文字エジプト語（紀元前8世紀頃–紀元後5世紀）
●行政・法律文書の言語
●デモティック（民衆文字）で記録

5.コプト語（紀元後3–21世紀）
●キリスト教文献の言語
●母音を表記する新しい文字体系を採用

宮川·河合(2024)『読めない文字に挑んだ人々』山川出版社, p. 71より



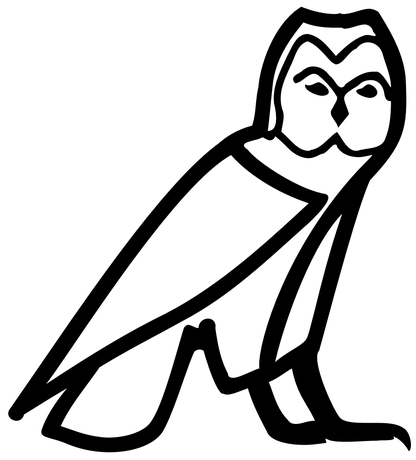
Textes et langages de l'Égypte pharaonique (Bibliothèque d'Études, 64), Le Caire, 1974; P. GRANDET, B. MATHIEU, *Cours d'égyptien hiéroglyphique*, I, Paris, 1990, p. 9 ; M. MALAISE, J. WINAND, *Grammaire raisonnée de l'égyptien classique*, Liège, 1999, p. 5-10.

クロード・オブソメールによるエジプト語史とその文字史（Obsomer〈2009〉） 数字の前の＋は紀元前を、－は紀元後を示す

アラビア語との違い 現代エジプトで使用されているアラビア語は、7世紀以降のイスラム化に伴って広まった言語です。両言語はアフロ・アジア語族という大きな枠組みでは関係がありますが、語派が異なり、文法構造や語彙は大きく異なります。

言語交替の歴史 エジプトでアラビア語が広まる以前は、コプト語が日常生活で使用されていました。7世紀以降、イスラーム化とともにアラビア語が徐々に普及し、11世紀頃にはアラビア語が都市部での主要言語となり、コプト語は、14世紀には日常言語としての使用がほとんどなくなりました。コプト語は次第にコプト正教会などのコプト・キリスト教の典礼などでの使用に限られるようになり、今日に至っています。この言語交替の過程は、エジプトの文化が、ギリシア・ローマ時代を経て、イスラーム文化へと変容していく歴史とも密接に関係しています。古代エジプト語の研究は、この地域の文化変容の過程を理解する上でも重要な手がかりとなっているのです。

古代エジプト語を書いた文字



ヒエログリフで「m」の音を表す表音文字（出典JSesh）

文字の種類と役割 古代エジプト文字（ヒエログリフ、ヒエラティック、デモティック）は大きく3種類の機能の文字から構成：

1.表音文字：特定の音を表す文字 例： 「口」の形の文字は「r」の音を表します

2.表語文字：絵の形そのものが意味を表す文字 例： はrꜥ「太陽」やhrw「日」といった語を表します

3.限定符：前の文字列の意味分野を示す記号 例：「口を使う動作」に関する単語の後には という限定符が付きます

ヒエラティックで「m」（出典AKU）古王国時代第5王朝、アブシール出土、ベルリン·エジプト博物館·パピルスコレクション所蔵、 Georg Möller 氏によるCC BY 4.0

ヒエログリフから現代のアルファベットへ ：ヒエログリフ、ヒエラティック、デモティックを総称して、**古代エジプト文字**と呼びます。エジプトに住んでいたセム諸語を話す人々は、古代エジプト文字の表音文字に影響を受けて、独自の表音文字を作成しました。このセム系諸文字は、現代のラテン文字 (英字)、ギリシア文字、アラビア文字、ヘブライ文字、さらには、インド系諸文字やゲエズ文字など、様々な文字の源流となっています。

ヒエラティックで「m」（出典AKU）新王国時代第20王朝ラメセス４世治下、アブシール出土、トリノ·エジプト博物館所蔵、yra van der Moezel氏によるCC BY 4.0

文字体系の発展 古代エジプトの文字体系は、使用目的に応じて異なる書体が発展しました：

1.ヒエログリフ [聖刻文字]（古・中・新エジプト語）
石碑や神殿の壁に使用、装飾的で格調高い書体
縦書き・横書きどちらも可能

2.ヒエラティック[神官文字]（古・中・新エジプト語）
パピルスやオストラコンに筆記、行政文書や文学作品に使用、右から左の横書きが基本

3.デモティック[民衆文字]（民衆文字エジプト語）
さらに簡略化された文字、日常的な文章でも碑文でも使用

4.コプト文字（コプト語）
ギリシア文字を基礎に、母音を表記可能

デモティックで「m」(出典DPDP) 紀元前3世紀エレファンティネ島出土、P. Berlin P 13565, 9

書記の役割 文字を扱える書記は、古代エジプト社会で重要な地位を占めていました。彼らは長い教育期間を経て、文字体系を習得しました。神官や行政官として活躍し、王朝の記録や宗教文献の作成、行政文書の作成を担当していました。

解読の歴史 ヒエログリフの解読は、ロゼッタストーンやフィラエ・オベリスクで大きく進展しました。特にロゼッタストーンでは同じ内容が、ヒエログリフ、デモティック、ギリシア語で書かれていました。**ジャン＝フランソワ・シャンポリオン**はコプト語の知識とこれらの対訳テキストを使って、1822年にヒエログリフの体系の解読に成功しました。

デモティックで「m」(出典DPDP) 紀元後1世紀ディメ出土、P. Wien ÖNB (Vindob) D 6344 rto, 4

古代エジプト文字（ヒエログリフ、ヒエラティック、デモティック）の基礎

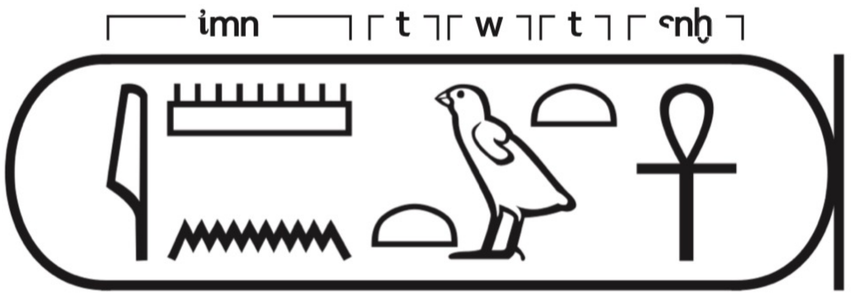
- 古代エジプト文字は**表音文字・表語文字・限定符**の組み合わせですが、表音文字には、**１子音文字、２子音文字、３子音文字**があります。
- 2子音文字・3子音文字はそれぞれ２子音と３子音を表します。例えば、prは２子音文字だが、理論上、parでも、pirでも、perでも、aparuでも、apraでも、前後や間にどんな母音も挿入することができます。
- 2子音文字・３子音文字・表語文字は、1子音文字や2子音文字で、その文字が表す子音を「ふりがな」のように補助的に表すことができます（**音声補充**）。
- 神名など尊敬の対象となる単語あるいは文字は、文法を無視して、その語句や文の先頭に書かれることがあります（**尊敬の倒置**）。
- エジプト語は、文字からは子音の情報しか得られないが、通常、エジプト学者は、以下の**人工的な母音追加のルール**を用いて、エジプト語を読みます。

人工的な母音を加えた読み方のルール

1. 喉音（*ꜣ, ꜥ*）はaと読み替える
2. *i̯ / j / ï* およびyは、iと読み替えるが、語頭にある場合はaと読み替えることもある
3. *w*はuと読み替える
4. 残りの子音の間に母音eを入れて読む

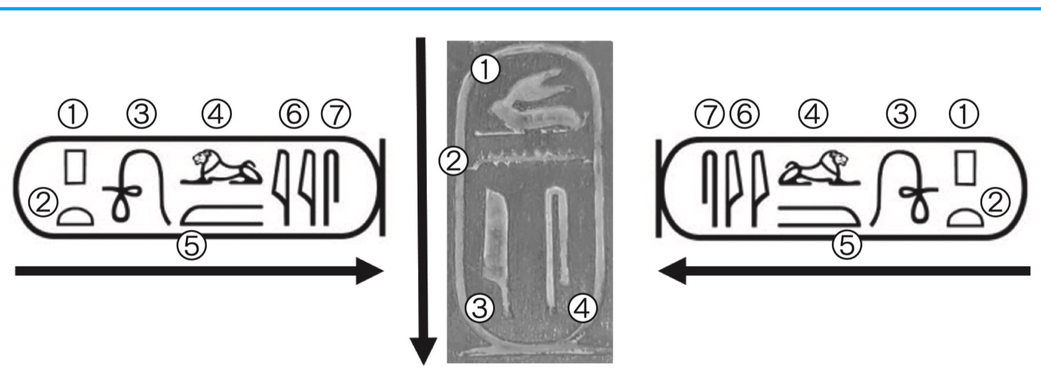
宮川·河合(2024)『読めない文字に挑んだ人々』山川出版社, p. 30より

例１



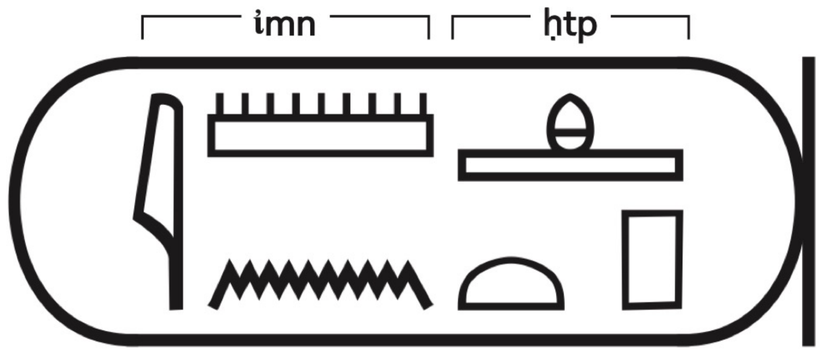
twt-ḥnḏ-imn → tut ankh amen → トゥト・アンク・アメン → ツタンカーメン

宮川·河合(2024)『読めない文字に挑んだ人々』山川出版社, p. 44より



宮川·河合(2024)『読めない文字に挑んだ人々』山川出版社, p. 32より

例２

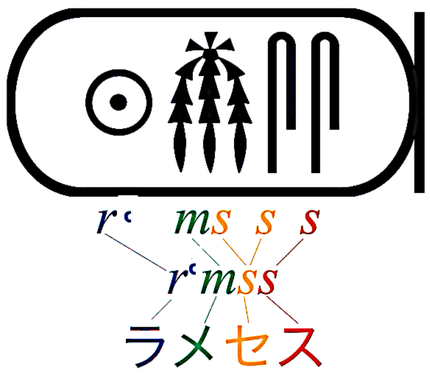


imn-ḥtp → amn-ḥtp → amen-ḥetep → amen-ḥetep → アメン・ヘテプ

ラメセスの名前について

凡例：< > 子音転写　*/ / 再建音素

古代エジプトには、新王国時代の第19王朝から第20王朝にかけてラメセス*rꜥ-ms(j)-s(w)*という誕生名の王が複数存在する。この王の名は次のように記される。



rꜥ ms(j) s(w)

ラーは彼を産んだ者である。

＝rꜥ＝ 太陽（太陽神ラー）　＝ms＝ 産む

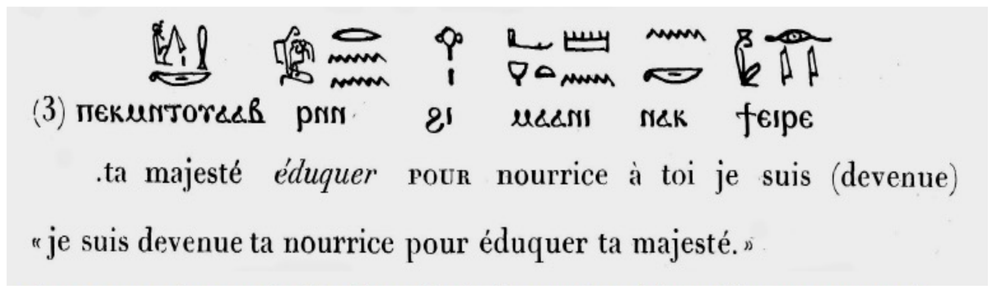
- しかしコプト語では太陽はⲣⲏ レ（ー）
- そして、「産む」は、サイード方言ⲙⲓⲥⲉ ミセ、ボハイラ方言ⲙⲓⲥⲓ ミスィ。
- そして同時代の楔形文字では *ri-a-me-še-ša*（リアメシェシャ）→ 当時の発音が「ラメセス」ではあり得ない。
- おそらく、この王の名前の発音は、

*/riːʕamaˈseːsa/

音声復元の方法論：失われた声を探る

古代の音声をどう復元するか 古代の言語の発音を復元することは、音声記録が存在しない以上、大きな挑戦です。しかし、研究者たちは様々な方法を組み合わせることで、可能な限り正確な復元を目指しています。

シャンポリオンのエジプト語文法
Champollion (1836: 458)



言語内部からの再建手法

1.より新しいコプト語から過去の姿を探る

- 音韻体系や文法体系がよりわかっているコプト語からそれ以前の古代エジプト語の音を再建：シャンポリオンの時代からなされてきました。

2. 形態音韻論的な交替

- 文法機能の違いに対応する形態の異なりを分析。
- 一つの言語の中での変化を分析、文法的な機能と発音の関係を調査。

3.綴り間違い：ある時点の綴りで特定の文字と別の文字がよく置き換わる時、それらの文字が表す音（音価）は、同じか近いと分析。

言語外部からの再建方法

- 他言語での古代エジプト語からの借用語や固有名詞の綴りや発音を調べる。
- 古代ギリシア語（シャンポリオン以降）、楔形文字資料（近年脚光）。

比較言語学的アプローチ（同系言語の比較）

- 同系統の言語間での基礎語彙などの同源語の音対応による分析。
- アフロ・アジア語族（言語ファイラム）の他の言語との比較：セム語派、ベルベル語派、クシュ語派、チャド語派（最近はオモ語派は除外?）。

音声変化の法則

1.よくある音変化

- 調音や音響の面で説明できる変化、言語学的に知られている変化のパターン。
- 弱化：音が時間とともに弱くなる（例：非強勢母音が曖昧母音に）。
- 同化：隣接する音の影響で似た音に（例：nがbの前でmの音に）。

3.珍しい音変化

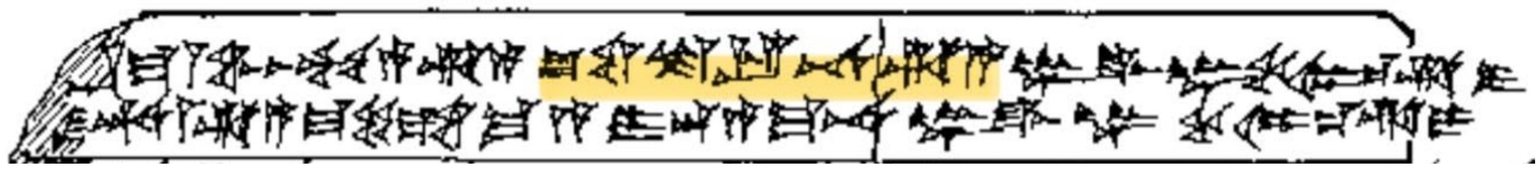
- 通常起こりにくい変化には慎重な検討。
- 例：古代エジプト語の*/d/ > */ʕ/の変化：咽頭音は通常、口蓋垂音や側面音から発達、歯茎音からの発達は極めて珍しい。

研究の現状と展望 これらの方法を組み合わせることで、研究者たちは古代の発音をより正確に復元しようと試みています。ただし、復元には常に仮説と解釈が含まれることを忘れてはいけません。新しい証拠の発見や研究方法の進歩により、私たちの理解は日々深まっているのです。

古代エジプト語の音声を復元する：証拠と方法

音声復元の課題 古代エジプト語の発音を復元することは、大きな挑戦です。この言語はもはや話されておらず、歴史を通じて使用された文字体系は主に子音を表し、母音の表記は限られていたためです。しかし、研究者たちは様々な方法を組み合わせて、発音の復元に取り組んでいます。

KBo (Keilschrifttexte aus Boghazköi, Berlin) 28.23
CTH 158 Marriage letters from Ramses II to Puduḫepa

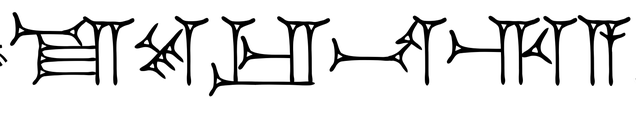


主な研究方法

1. コプト語からの証拠

- 母音を含むギリシア文字ベースのアルファベットを使用。
- コプト語の単語を遡って分析することで、古い時代の母音パターンを再構築。

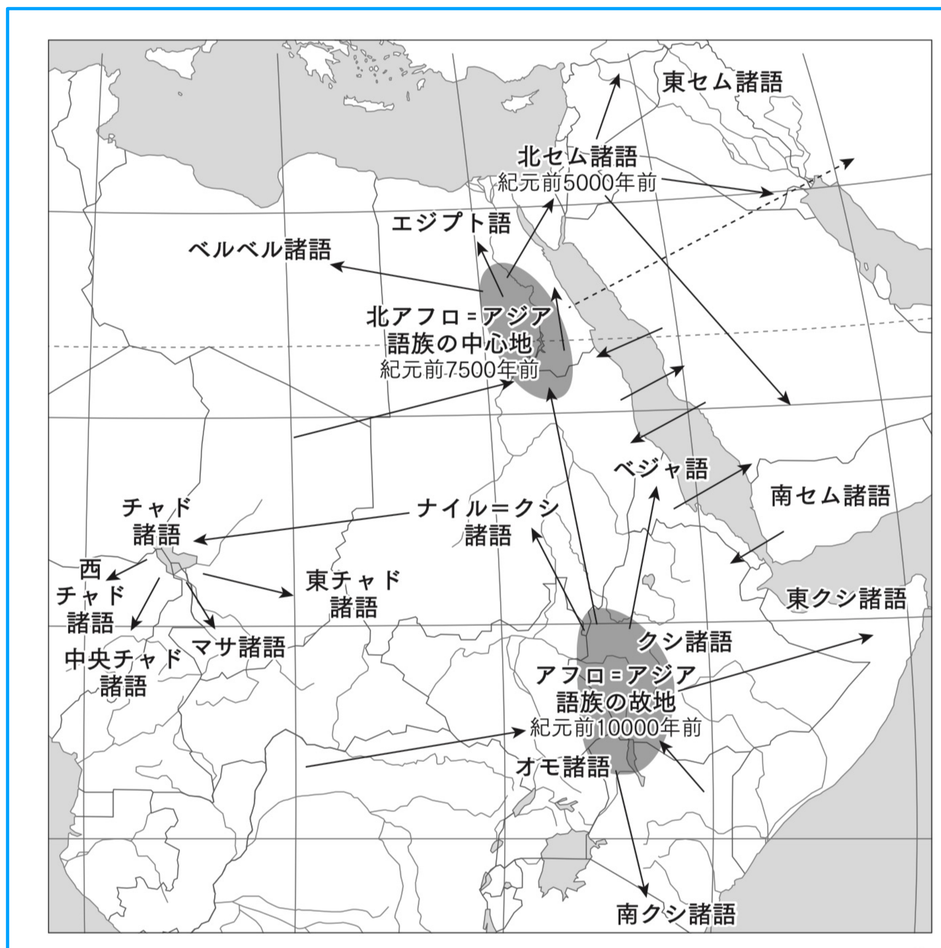
2. 外国語による転写の研究

- アッカド語の楔形文字やギリシア語による転写の分析。
- 例：ラムセス2世の即位名 ***stpnrʿ*** は楔形文字で  *ša-te-ep-na-ri-a* (KBo 28.23 (CTH 158) [adapted by TLH^{dig}] http://134.93.14.97/TLHdig/tlh_xtx.php?d=KBo%2028.23)と表記（ほかにも*šá-*などの別の表記あり）。
  →これにより、当時の発音*/saˌtepnaˈriːʕa/が推定可能 (Loprieno 1995)。

3. アフロ・アジア比較言語学による研究

- 関連する言語の同源語（共通の祖先を持つ単語）の分析。
- 例：エジプト語<q3b>はセム語qrb「内部」と対応　→<3>とセム諸語のrは対応する
- このような対応から、子音や母音の音価を推定。

宮川·河合(2024)『読めない文字に挑んだ人々』山川出版社, p. 50より



アフロ＝アジア語族の故地　ロジャー・ブレンチの2006年の説に基づく[9]

研究上の課題

1.文字転写の慣習

- 転写に使用される記号は便宜的なもの。
- 実際の古代の音を正確に表しているわけではない。

2.エジプト語の「強勢音」の音声実現をめぐる議論

- 一部の子音の発音についての解釈の違い。
- 放出音（ejective）か有声破裂音か無気音かの議論。

3.セム語との比較の限界

- セム語との類似性は明らかだが
  対応する音が同一だったとは限らない。

今後の展望 古代エジプト語の音声の復元は、現在も進行中の研究課題です。新しい証拠の発見や言語学的手法の進歩により、この言語の音韻体系についての理解は深まり続けています。また、新技術や学際的なアプローチが、この研究においてますます重要な役割を果たすようになってきています。

発音復元の手がかりⅠ：コプト語の証拠

コプト語の重要性 古代エジプト語の発音を復元する上で、その最終段階であるコプト語は決定的に重要な証拠を提供します。紀元後3世紀頃に出現したコプト語は、ギリシア文字を基礎とした文字体系を採用し、それまでのエジプト語には見られなかった母音の表記を可能にしました。ただし、その詳細については同じ母音字の重複の音価など未解決問題があります。

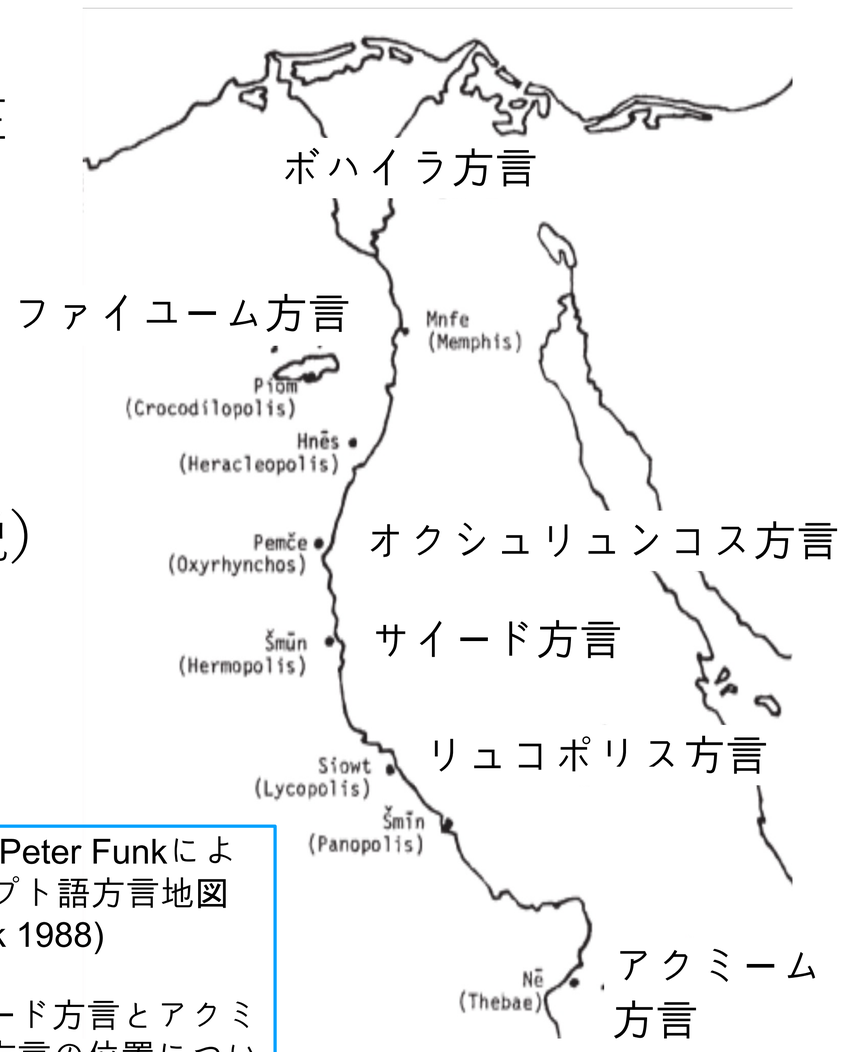
コプト語の文字体系

1.ギリシア文字＋デモティックから追加文字

- ギリシア文字24文字 ⲁ ⲃ ⲅ ⲇ ⲉ ⲍ ⲏ ⲑ ⲓ ⲕ ⲗ ⲙ ⲛ ⲝ ⲟ ⲡ ⲣ ⲥ ⲧ ⲩ ⲫ ⲭ ⲯ ⲱ (+ ϩ) をベースに母音を表記
- デモティックから６～9文字の追加文字ϣ ϥ (ϧ) ϩ ϫ ϭ ϯ (ϣ) (ϥ) を補足：エジプト語固有の音を表す特別な文字の採用。

2.方言ごとの特徴

- 6つの主要方言：**ボハイラ方言**（11世紀以降コプト教会の典礼語、下エジプト、以下は上エジプト）、ファイユーム方言、オクシュリンコス方言、リュコポリス方言、**サイード方言**（4–11世紀の共通語）、アクミーム方言
- 主に音韻面での違いだが、一部語彙的・文法的な差異も存在



Wolf-Peter Funkによるコプト語方言地図 (Funk 1988)

サイード方言とアクミーム方言の位置については諸説あり

古代エジプト語からコプト語への音声変化

1.母音体系の変化

- 中エジプト語の3母音体系（/i/, /a/, /u/と長母音のペア）
- コプト語サイード方言での変化（宮川：８母音＋対長母音説）
- 強勢位置にあるコプト語のⲟⲩ */u/ は 中エジプト語 */aːˑ/

例 nṯr */ˈnaːcaʀ/ →コプト語サイード方言ⲛⲟⲩⲧⲉ */ˈnutə/

2.非強勢母音の変化

- 方言による異なる変化
- 非強勢語末音節の末子音の脱落（特に<t>）

3.子音体系の変化

- 放出音の消失（<d>, <g>, <ḏ>, <b>）あるいは、単に無表記
- 放出音とは・・・声帯と調音点の間の気圧によって発音する音、エチオピア、コーカサス、南北アメリカの言語などでよく見られる。
- ボハイラ方言での破裂音の有気音化（ⲃ ⲓ ⲗ ⲙ ⲛ ⲟ ⲣの文字の前）：サイード方言 ⲡ-ⲛⲟⲩⲧⲉ */ˈp-nutə/ 定冠詞.男性.単数-神 ←→ ボハイラ方言ⲫ-ⲛⲟⲩⲧ */ˈpʰ-nutɪ/

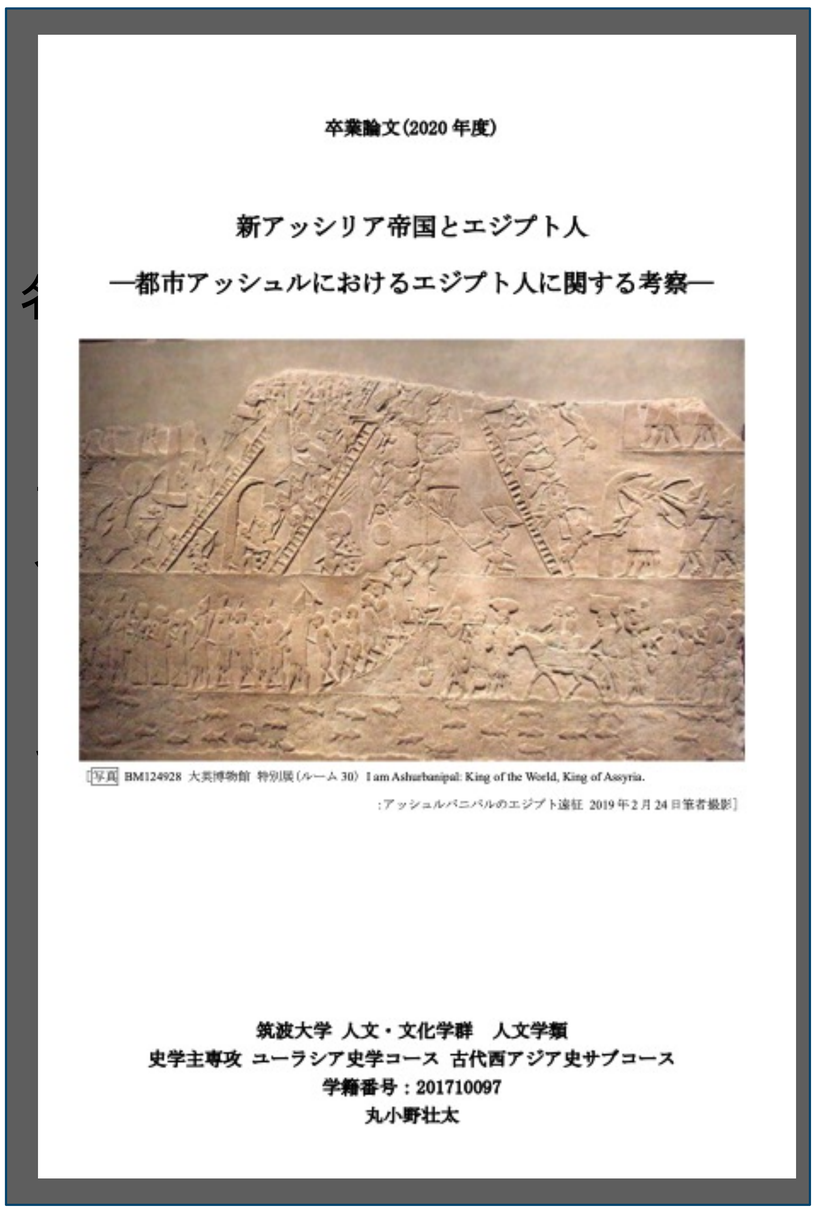
研究への応用 コプト語の証拠は、楔形文字の転写など他の資料と組み合わせることで、古代エジプト語の発音をより正確に復元することを可能にしています。特に以下の点で重要な情報を提供します：

・母音の音価と分布の理解 ・アクセント位置の特定・音節構造の解明・子音の音価の確認

このように、コプト語は古代エジプト語の発音研究において、最も重要な証拠源となっているのです。

発音復元の手がかりⅡ：楔形文字文献

楔形文字の重要性 メソポタミア（現在のイラクを中心とした地域）で紀元前4千年紀末に生まれた楔形文字は、古代エジプト語の発音を復元する上で貴重な手がかりを提供します。粘土板に楔形の文字を刻むこの文字体系は、アッカド語、シュメール語、ヒッタイト語、エラム語など、様々な言語に適応しながら発展しました。


卒業論文(2020 年度)

新アッシリア帝国とエジプト人

―都市アッシュルにおけるエジプト人に関する考察―

写真 BM124928 大英博物館 特別展〈ルーム 30〉I am Ashurbanipal: King of the World, King of Assyria.

:アッシュルバニパルのエジプト遠征 2019 年 2 月 24 日筆者撮影]

筑波大学 人文・文化学群 人文学類
史学主専攻 ユーラシア史学コース 古代西アジア史サブコース
学籍番号：201710097
丸小野壮太

楔形文字文献による音声転写の証拠

古代エジプト文字にはない母音の音声情報を提供。

1.アマルナ書簡

- 紀元前14世紀のエジプトとメソポタミアの外交文書。
- エジプト語の単語、語句、名前を含む貴重な資料。

2.書記官のエジプト語転写実践

- アッカド語の楔形文字でエジプト語の音を楔形文字の慣習に従って表現。

3. 楔形文字圏のエジプト人名

丸小野壮太氏の卒業論文と収録の『新アッシリア帝国人名事典(PNA)内の「エジプト人」一覧表』→

母音推定のための手がかり

1.楔形文字における母音表記

- コプト語にならぶ古代エジプト語の母音の情報源。

2.比較分析の方法

- 楔形文字によるエジプト語の転写を、古代エジプト文字での綴りとコプト語での後代の形式と比較することでエジプト語の母音を推定。

研究上の制限と課題

1.アッカド語の音韻的影響

- 楔形文字での転写はアッカド語の音韻体系の影響を受けている可能性。
- 純粋なエジプト語の発音とは異なる可能性を考慮。

2.文字体系の限界→母音の情報もあるが、全てが完璧に書き写されているわけではない

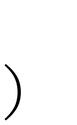
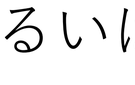
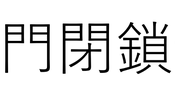
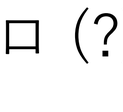
研究への応用 楔形文字の転写は、その限界を認識しつつ、コプト語などの他の資料と比較検討することで、古代エジプト語の発音についての重要な知見を提供します。特に以下の点で有用です：

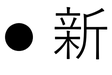
- 母音の存在と音価の推定と子音の音価の確認
- 音節構造の理解とアクセントパターンの推測

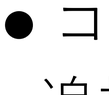
このように、楔形文字による証拠は、古代エジプト語の発音研究において重要な補完的役割を果たしているのです。

復元された音声体系：古代エジプト語の声の姿

1.子音の世界

- **閉鎖音**（調音位置による分類）[A説：放出音説、B説：伝統的な説、C説：有気音説]
  - **両唇音**：□ <p>（A説）非放出音 */p/（B説）無声音 */p/（C説）有気音 */p^h/、  <b>（A説）放出音 */p’/（B説）有声音 */b/（C説）無気音 */p/
  - **歯茎音**： <t>（A説）非放出音 */t/（B説）無声音 */t/（C説）有気音 */t^h/、 <d> 放出音 */t’/（B説）有声音 */d/（C説）無気音 */t/
  - **硬口蓋音**：  <ṯ>（A説）非放出音 */c/（B説）無声音 */c/（C説）有気音 */c^h/、 <ḏ>（A説)放出音 */c’/（B説）有声音 */ɟ/（C説）無気音 */c/
  - **軟口蓋音**： <k>（A説）非放出音 */k/（B説）無声音 */k/（C説）有気音 */k^h/、 <g>（A説)放出音 */k’/（B説）有声音 */g/（C説）無気音 */k/
  - **口蓋垂音**： <ḳ>あるいは＜q> */q/（アラビア語のqāfに似た音）
- **摩擦音**： <f> 唇歯音 */f/、 <s> 歯茎音 */s/ <š> 後部歯茎音 */ʃ/、 <ḥ> 咽頭音 */ħ/、 <ḫ> 軟口蓋音 */x/、 <ḫ> 硬口蓋音 */ç/、 <h> 声門音 */h/
- **鼻音**： あるいは  <m> 両唇音 */m/、あるいは 歯茎音<n> */n/
- **流音**： <r> 側面接近音* /l/ →　歯茎たたき音 */r/あるいは 歯茎ふるえ音*/r/、  <rw> → <l> 側面接近音 */l/（主にギリシア・ローマ時代）
- **わたり音**： <w> 両唇軟口蓋接近音*/w/、 <y> 硬口蓋接近音 */j/
- **特殊な変化**

 <ꜣ>: 側面接近音 */l/ (?) → 口蓋垂ふるえ音 */ʀ/ (?)→ 声門閉鎖音*/ʔ/

 <ꜥ>: 有声歯茎閉鎖音 /d/ (?!) →有声咽頭摩擦音/ʕ/

 <i> / <j> 声門閉鎖音 */ʔ/ (?)→硬口蓋接近音*/j/→声門閉鎖音*/ʔ/あるいはゼロ (?)

 <z>あるいは<s> 放出歯茎閉鎖音 */s’/あるいは有声歯茎摩擦音 */z/あるいは歯茎破擦音*/t͡s/ → 歯茎摩擦音 */s/

2.母音の変遷

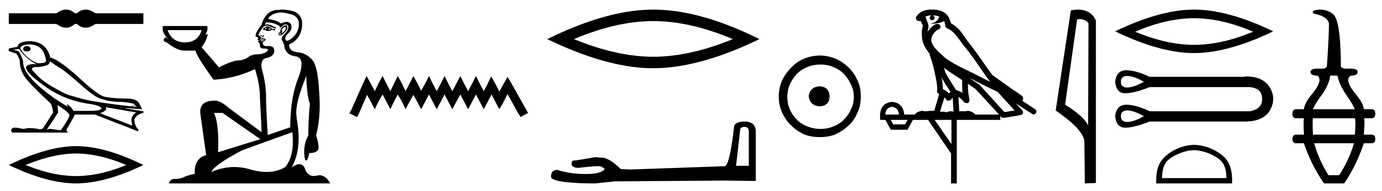
- 古い時代（古王国時代以降）おそらく3つの母音：*/a/、*/i/、*/u/とそれらの長母音 */aː/、*/iː/、*/uː/ ←文字には表れないが、比較や内部再建から推定、
- 新しい時代（新王国時代以降）：母音 */o/、*/e/とそれらの長母音 */oː/、*/eː/ 、さらに*/ə/の追加(?)
- コプト語サイード方言に至るまで：さらに*/ɛ/と*/ɔ/とそれらの長母音 */ɛː/と*/ɔː/ の追加(?)（長母音は二重母音字で表示）←形態音韻論的な対応とギリシア語・アラビア語からの借用語、さらに当時のコイネー・ギリシア語、古ヌビア語の母音字の音価より

カマーツェル教授による音再建(Kammerzell 2000)

紀元前3,000年頃の再建（文字なし；先古エジプト語）

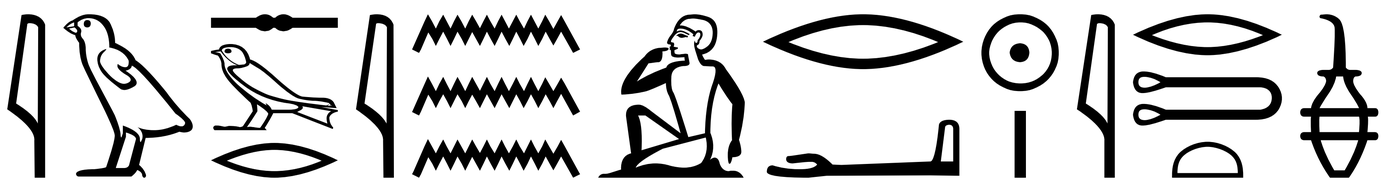
*taˈwil-na	ˈliːdu-w	guˈlaːk-at-a(?)
動詞-過去	神名-主格	名詞-女性-対格
飲んだ	太陽(神)が	乳を

紀元前2,400年頃の再建（古エジプト語）



zwr-n	Rʿw	jrṯ-t
*/t͡saˈwil-na	ˈliːduw	ɟuˈlaːc-at/
動詞-過去	神名	名詞-女性
飲んだ	太陽(神)が	乳を

紀元前1,800年頃の再建（中エジプト語）

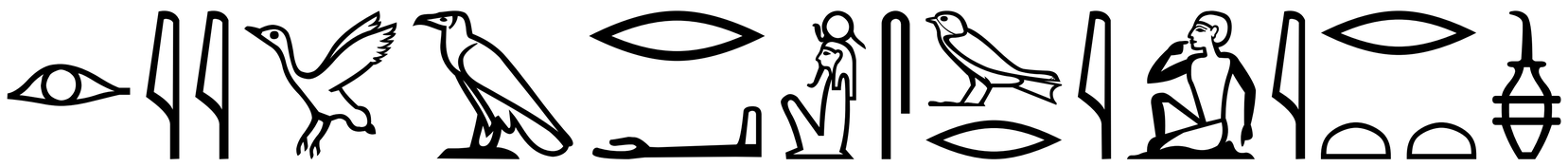


jw	zwr-n	Rʿw	jrṯ-t
*/jiw	saˈwij-na	ˈriːduw	ɟuˈraːc-aʔ/
主題	動詞-過去	神名	名詞-女性
それ(it)	飲んだ	太陽(神)が	乳を

紀元前1200年頃の再建（新エジプト語）

zwr	p-Rʿw	jrṯ-t
*/sawij	pə-ˈriːʕu	juˈraːtaʔ/
動詞	定冠詞-神名	名詞
飲んだ	the-太陽(神)	乳

紀元後100年頃の再建（民衆文字エジプト語、ただし人工的なヒエログリフ表記）



jr p-Rʿw	zwr jrṯ-t
*/ja-p-ˈriːʕ	ˌsaw-jəˈroːtə/
助動詞-定冠詞-神名	不定詞-名詞
した-the-ラー神	飲むこと-乳

文の意味はすべて「太陽(神)は乳を飲んだ」

本再建は、すべてベルリン・フンボルト大学教授のFrank Kammerzell氏の表記に基づきます。グロスおよび文法解釈もKammerzell (2000:98–99) の和訳です。Kammerzell氏は、この論文では、古代エジプト語の閉鎖音の対立（
<p> vs.
<b>,
<t> vs.
<d>,
<ṯ>,
<ḏ>,
<k> vs.
<g>）を無声と有声の対立だと仮定しています。これは、非放出音と放出音の対立だとするバーゼル大学教授Antonio Loprieno氏 (Loprieno 1995) らの解釈とは異なります。

また、コプト語のⲏとⲉ、ⲱとⲟの音価の対立を、Loprieno氏と同様、Kammerzell氏は長母音と短母音の対立としています。これは、長短は関係なく、より口の開きが狭い母音と広い母音の対立だとするPeust氏 (Peust 1999) らとは異なる考え方です。

紀元後500年頃の再建（コプト語）

ⲁⲡⲣⲏ	ⲥⲉⲉⲣⲱⲧⲉ
*/a-p-ˈriː.	ˌse-əˈroːtə/
過去-定冠詞-神名	不定詞-名詞
した-the-太陽(神)	飲むこと-乳

アレン教授による古エジプト語『ピラミッド・テキスト』第436スペルの音韻再建

本スペルは、サッカラのペピ１世、メルエンラー、ペピ2世のピラミッド内部に彫られた『ピラミッド・テキスト』に見られるスペルです。以下のテキストとその音韻再建は、Allen (2020: 175–179) による、ペピ2世の『ピラミッド・テキスト』（紀元前2155年頃）のものをベースにしました。しかし、ラテン文字音写は、アレン氏の表記ではなく、2023年8月にオランダのライデン大学で開催された第13回国際エジプト学者会議（The 13th International Congress of Egyptologists）で採択されたライデン統一翻字/転写ルール（The Leiden Unified Transliteration/Transcription）に書き換えました。また、音韻再建形は国際音声字母（International Phonetic Alphabet）に書き換えました。

mw=k n=k bḥ=k n=k
*/'mawik nik ba'ʕaħik nik/
「汝には汝の水があり、汝には汝の氾濫がある」

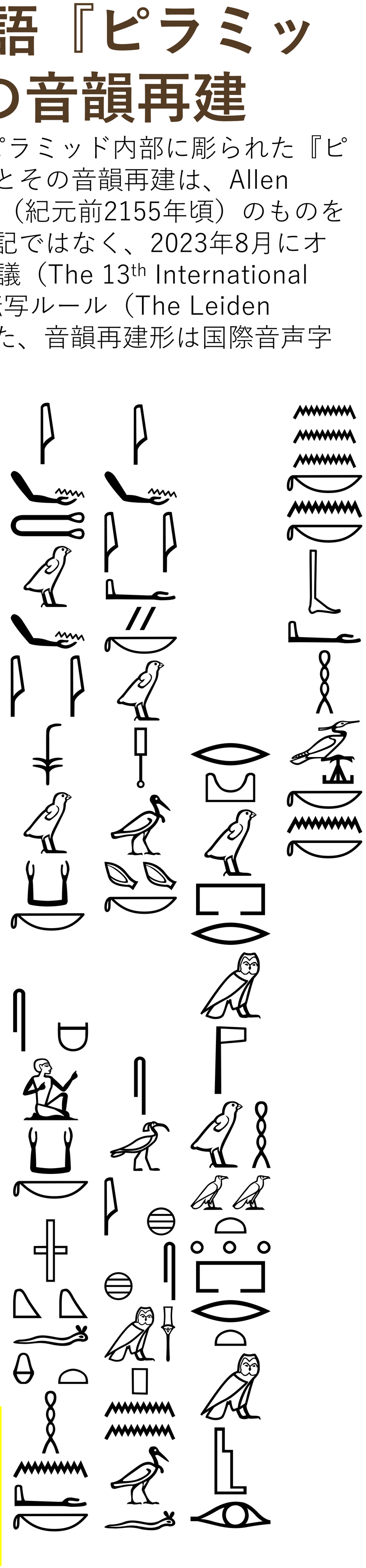
rḏw pr m nṯr ḥwꜣ.t pr.t m ỉsỉr
*/'riɟu 'pari ma'nacir ħaw'lalat 'parat maus'uri/
「神より来る流れ、オシリスより来る腐敗」

ỉʿy(=ỉ) dỉ.wï=k wbꜣ(=ỉ) msḏr.wï=k
/*i'ʕaj di'wajik wab'laj masɟar'wajik/
「我、汝の両腕を洗い、汝の両耳を浄める」

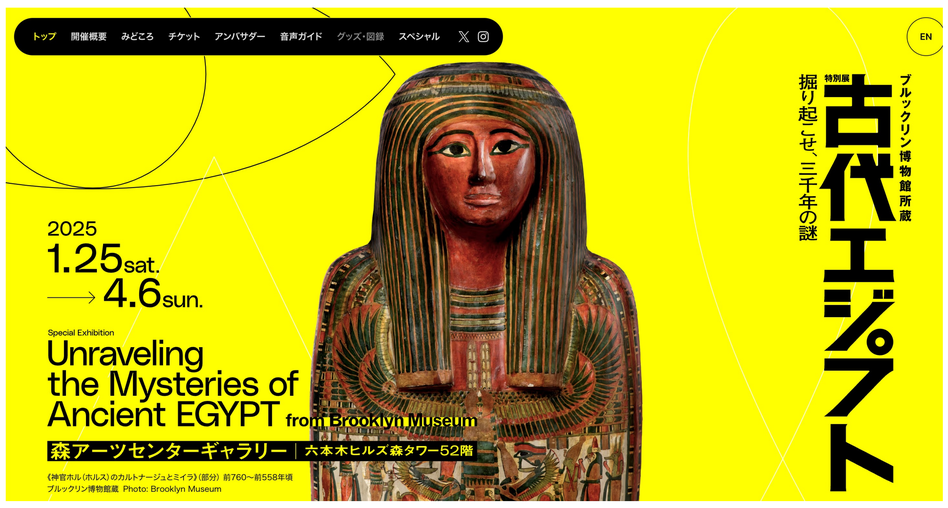
sꜣḫ(=j) sḫm pn n bꜣ=f
*/suli'xaj sixi'mipin ni'bilip͡f/
「我は、彼のバーのためにこの制御する力を発揮させる」

ỉʿ ṯw ỉʿy sw kꜣ=k
*/i'ʕacu iʕi'jasa 'kulik/
「汝自身を洗え、さすれば汝のカーは自身を洗う」

ḥms kꜣ=k wnm=f t ḥnʿ=k
*/ħim'sa 'kulik wan'map͡f ti ħi'naʕak/
「汝のカーは座し、汝と共にパンを食す」



森アーツセンターギャラリー（六本木ヒルズ森タワー52階）で2025年1月25日（土）～4月6日（日）に開催される「**ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト**」では、本スペルの、閉鎖音においては有声・無声の対立ではなく、放出音と非放出音の対立を採用した宮川創による発音を聞くことができます。



https://egypt-brooklyn.exhibit.jp/

音声協力

宮川創 みやがわそう

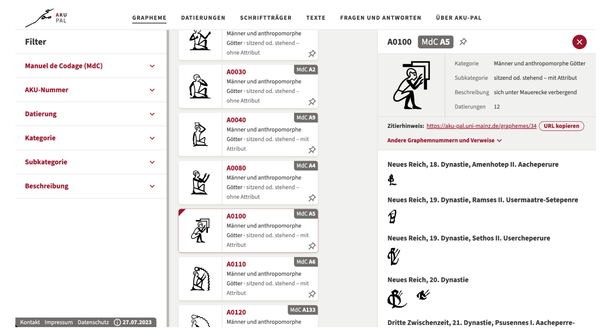
筑波大学准教授／エジプト学、コプト学博士

筑波大学准教授／エジプト学・コプト学博士（ゲッティンゲン大学）
コプト語以前の古代エジプト語は基本的に子音しか表記されない文字体系であるヒエログリフ、ヒエラティック、あるいは、デモティックで書かれたため、実際の発音が不明でした。本展で宮川氏は、現存最古の葬送文書ともいわれる『ピラミッド・テキスト』を当時の人々が話していたであろう古代エジプト語の「発音」によって再現。会場では、Final Stage「死後の世界の門をたたけ！」で古代エジプト語の音声が流れるなか作品を鑑賞することができます。（再建の可能性の一つとして注目される、古代エジプト語学者ジェームズ・アレン氏による、『ピラミッド・テキスト』スペル436の音声再建の研究を元にしています）

プロフィール

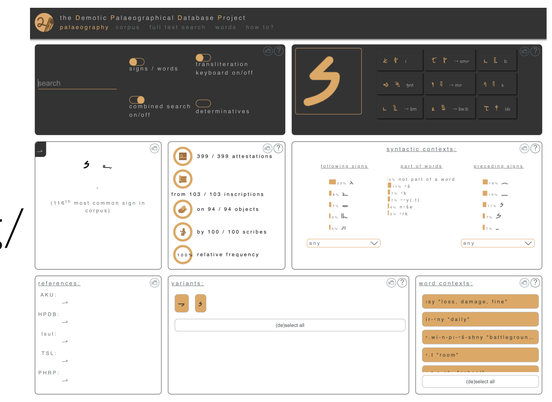
京都大学大学院文学研究科博士前期課程修了。ゲッティンゲン大学にて博士号取得。現在、筑波大学人文社会系准教授、国立国語研究所客員准教授。
早稲田大学・東北大学・駒澤大学・東京外国語大学オープンアカデミーなどでも非常勤講師を務める。東京大学先端科学技術研究センター（RCAST）創発戦略研究オープンラボ（ROLES）Humanitas Futura プロジェクトメンバー。
近著に『読めない文字に挑んだ人々：ヒエログリフ解読1600年史』（河合望監修、山川出版社、2024年）

エジプト語の参考ウェブサイト・オンライン講座



AKU-PAL

- **Thesaurus Linguae Aegyptiae**（古エジプト語・中エジプト語・新エジプト語・民衆文字エジプト語のコーパス・辞書）https://thesaurus-linguae-aegyptiae.de/home
- **Ramses Online**（新エジプト語コーパス）https://ramses.ulg.ac.be/
- **Coptic SCRIPTORIUM**（コプト語コーパス） https://copticscriptorium.org/
- **Coptic Dictionary Online**（コプト語辞書） https://coptic-dictionary.org/



DPDP

- **Thot Sign List**（ヒエログリフ字典、字形データベース） https://thotsignlist.org/
- **Demotic Palaeographical Database Project (DPDP)**（デモティック字典、字形データベース、コーパス、辞書）http://129.206.5.162/beta/index.html
- **AKU-PAL**（ヒエラティック字形データベース） https://aku-pal.uni-mainz.de/
- **Hieratische Paläographie DB**（ヒエラティック字形データベース）https://moeller.jinsha.tsukuba.ac.jp/
- **Persons and Names of the Middle Kingdom and Early New Kingdom**（中王国時代から新王国時代初期の人物と人名と官名）https://pnm.uni-mainz.de/5/info
- **Trismegistos**（紀元前8世紀から紀元後8世紀のエジプトの文献のデータベースなど）https://www.trismegistos.org/
- **VÉgA – Vocabulary of Ancient Egyptian**（中エジプト語辞書） https://vega-vocabulaire-egyptien-ancien.fr/
- **東京外国語大学オープンアカデミー**（一般向け・オンライン） https://tufsoa.jp/
  - 肥後時尚先生（筑波大学）の「**古代エジプト語**」講座
  - 宮川創の「**コプト・エジプト語**」講座
- **未草：ひつじ書房ウェブマガジン「古代エジプト語のヒエログリフ入門：ロゼッタストーン読解」**（2018-2021; 宮川創・吉野宏志・永井正勝）https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/category/rensai/hieroglyph/page/3/

参考文献

Allen, James P. 2013. *The Ancient Egyptian Language: An Historical Study*. Cambridge: Cambridge University Press.

———. 2020. *Ancient Egyptian Phonology*. Cambridge, United Kingdom: Cambridge University Press.

Blench, Roger. 2006. *Archaeology, Language, and the African Past*. Rowman Altamira.

Černý, Jaroslav. 1976. *Coptic Etymological Dictionary*. Cambridge: Cambridge University Press.

Champollion, Jean-François. 1836. *Grammaire Égyptienne Ou Principes Généraux de l'Écriture Sacrée Égyptienne Appliquée à la Représentation de la Langue Parlée*. Paris: Firmin Didot Frères.

Funk, Wolf-Peter. 1988. "Dialects Wanting Homes: A Numerical Approach to the Early Varieties of Coptic." In *Historical Dialectology: Regional and Social,* edited by Jacek Fisiak, 149–92. Berlin: De Gruyer Mouton.

Loprieno, Antonio. 1995. *Ancient Egyptian: A Linguistic Introduction*. Cambridge: Cambridge University Press.

Loprieno, Antonio, and Matthias Müller. 2012. "Ancient Egyptian and Coptic." In *The Afroasiatic Languages*, edited by Zygmunt Frayzyngier and Erin Shay. Cambridge: Cambridge University Press.

Kammerzell, Frank. 2000. "Egyptian Possessive Constructions: A Diachronic Typological Perspective." *Sprachtypologie Und Universalienforschung: STUF* 53:97–108.

Obsomer, Claude. 2009. *Égyptien Hiéroglyphique*. Edition Safran.

Peust, Carsten. 1999. Egyptian Phonology: An Introduction to the Phonology of a Dead Language. Vol. 2. Monographien Zur Ägyptischen Sprache. Göttingen: Peust & Gutschmidt.

丸小野壮太 2020.『新アッシリア帝国とエジプト人―都市アッシュルにおけるエジプト人に関する考察―』筑波大学人文・文化学群 人文学類史学主専攻 ユーラシア史学コース 古代西アジア史サブコース卒業論文.

宮川創（著）河合望（監修）2024.『読めない文字に挑んだ人々：ヒエログリフ解読1600年史』山川出版社.